

「伝え合い」「学び合い」を通して確かな学力を育むオンライン教育活動の一例

オンライン Live 全校学習発表会

オンライン Live 全校学習発表会

2020 年度 4 月より、オンライン Live 授業を開始し、一学期間の学びの集大成として、授業最終日に全校学習発表会を開催した。

小学部一年生から中学部三年生までが参加することで、上級生と下級生それぞれの発表が、お互いの刺激や目標となり、小中一貫縦割り活動の一端を担う有意義な活動の場にもなった。



《実践の目的》

オンライン Live 授業を通して、「何を学んだのか」「どのように学んだのか」「何ができるようになったのか」等、評価の観点から個々の学習成果を捉えたいと考えた。

当校の教育目標『日本語での「伝え合い」「学び合い」を通して確かな学力を育む』ための活動の一環として、オンライン Live 授業の延長線上に、今回の全校学習発表会を計画した。

全校一斉の学習体験を通じ、「何のために学ぶのか」という「学び」の本質や学習意義を一人ひとりが意識して、今後の学習に活かして欲しいものである。

《実践の方法》

学習発表会までの過程と実践

① 学習目標

学習指導要領に基づく教科書単元の内容をもとに、オンライン上での表現活動ができるよう、多様な課題を児童・生徒の実態に応じて設定した。

② 各学年の国語科関連単元と学習活動

学年	単元名	学習活動と発表内容
小学部第一学年	単元名「あいうえおで あそぼう」 	平仮名読み書きや、言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことを目標に、五十音表の文字を使って作文したものを発表。

小学部第
二学年

単元名「うれしかったことば」

【くご】

「うれしい ことば」の単位で、どんな時に、どんな言葉を覚えてうれしかったかを考えました。縦横の時に「じょうずだね」「すていねい」と言ってもらったこと、聞いている時に「手伝おうか」と言ってもらったことなどがありました。

【おまわり】

教科書44ページを参考に、感じた言葉をノートに書きましょう。どんな時、誰が何と言ってくれて、どう思ったかを、書きましょう。次週、授業の最後に読みあいます。

【さんすう】

先週に続き、取の真し方を学習しました。100[100]100のカードで表したり、100円玉と100円玉で100を表したり考えたり、数直線上で表したりを学習しました。いろいろな方法が思いつきました。



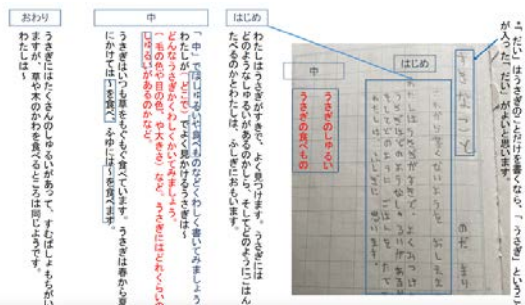

言葉には、経験したことを伝える働きがあることを学び、経験したことから題材を見つけ、伝えたいことを明確に「うれしかった言葉」に関する作文紹介

小学部第
三学年

単元名「きちんと伝えるために」
単元名「こまを楽しむ」

おわり 中 はじめ

「はじめ」「中」「おわり」で文章を構成。「はじめ」に、「問い」を入れて、「おわり」に、「問い」の答えや結論で文章を組み立てる。



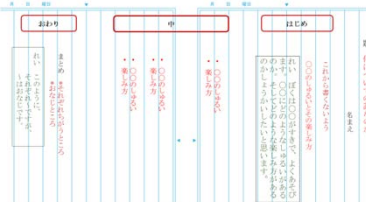



日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選び、文章のまとまりを考えて「はじめ」「中」「おわり」で文章を構成。「はじめ」に、「問い」を入れて、「おわり」に、「問い」の答えや結論で文章を組み立てる。

教科書34ページ

「こまを楽しむ」

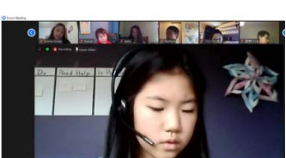
① 問い
② 答え
③ 問い
④ 答え
⑤ 問い
⑥ 答え
⑦ 問い
⑧ 答え
⑨ 問い
⑩ 答え



小学部第
四学年

単元名「白いぼうし」

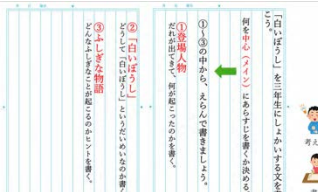


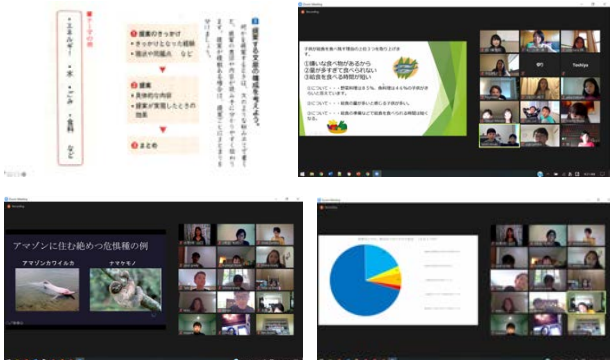
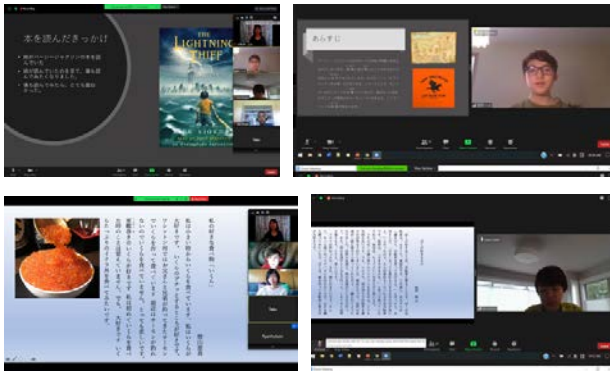
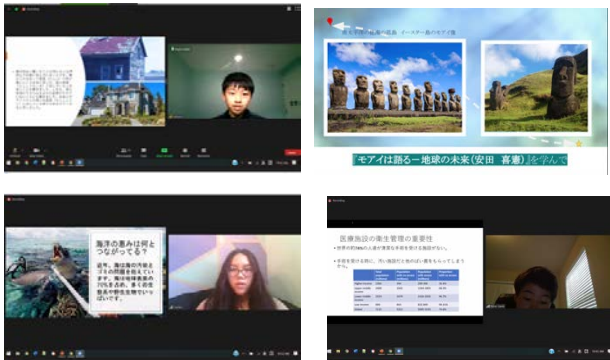



登場人物の行動や気持ちなど叙述を基に捉え、それぞれの感想や考えたことを想像や理由を添えて話し合った。それらを基に作成した物語の紹介文

「白いぼうし」を三学年にしようとする全書

① 登場人物
② 「白いぼうし」について
③ よしな話
④ よしな話



小学部第 五学年	単元名「見立てる」 単元名「言葉の意味がわかること」 	文章構成を整理して要旨を捉え 筆者が何を伝えたいかを読み取り、それをもとに自分の知識や 経験を踏まえた考えを発表。 						
小学部第 六学年	単元名「私たちにできること」 	具体的な事実や考えをもとに、 提案する文章を書こう」という 学習課題を設定。 資料や教材から世界の課題を 知り、身の回りの問題解決に繋 がる事柄を考えた。事実と感想 意見とを区別して自分の考えが 伝わるよう工夫した提案書。						
中学部第 一学年	単元名「好きなもの」を紹介しよう 	「好きなもの」と出会ったきっか けや、好きになった理由、具体 的な体験、友達に興味をもって もらえそうなことを考え、話の 構成や順序を工夫して紹介 <table border="1"><tr><td>本時の目標</td><td>○声の大きさや話す速さ、間の取り方などに気をつけて、聞き取りやすい話し方をする ことができる。A (1)ウ ○反復などの表現の技法を理解し、必要に応じて用いることができる。包題 (1) イ (オ) ☆相手が分かりやすいように話を組み立て、聞き取りやすいように工夫するとともに、ポ イントを押さえてスピーチメモをもとにスピーチすることができる。【人間形成・社会形成】</td></tr><tr><td>本時の 評価規準</td><td>☆包題 (1) イ (オ)が相手によく分かる話し方について考え、工夫してスピーチしようとして いる。熱心に取り組もうとしている。 ☆話し態度や言葉、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場 に応じた言葉遣いなどに注意してスピーチしている。 ☆必要に応じて反復などの表現を用いて重要な点を強調し、スピーチしている。</td></tr><tr><td>評価方法</td><td>発表・観察・ワークシート</td></tr></table>	本時の目標	○声の大きさや話す速さ、間の取り方などに気をつけて、聞き取りやすい話し方をする ことができる。A (1)ウ ○反復などの表現の技法を理解し、必要に応じて用いることができる。包題 (1) イ (オ) ☆相手が分かりやすいように話を組み立て、聞き取りやすいように工夫するとともに、ポ イントを押さえてスピーチメモをもとにスピーチすることができる。【人間形成・社会形成】	本時の 評価規準	☆包題 (1) イ (オ)が相手によく分かる話し方について考え、工夫してスピーチしようとして いる。熱心に取り組もうとしている。 ☆話し態度や言葉、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場 に応じた言葉遣いなどに注意してスピーチしている。 ☆必要に応じて反復などの表現を用いて重要な点を強調し、スピーチしている。	評価方法	発表・観察・ワークシート
本時の目標	○声の大きさや話す速さ、間の取り方などに気をつけて、聞き取りやすい話し方をする ことができる。A (1)ウ ○反復などの表現の技法を理解し、必要に応じて用いることができる。包題 (1) イ (オ) ☆相手が分かりやすいように話を組み立て、聞き取りやすいように工夫するとともに、ポ イントを押さえてスピーチメモをもとにスピーチすることができる。【人間形成・社会形成】							
本時の 評価規準	☆包題 (1) イ (オ)が相手によく分かる話し方について考え、工夫してスピーチしようとして いる。熱心に取り組もうとしている。 ☆話し態度や言葉、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場 に応じた言葉遣いなどに注意してスピーチしている。 ☆必要に応じて反復などの表現を用いて重要な点を強調し、スピーチしている。							
評価方法	発表・観察・ワークシート							
中学部第 二学年	単元名「魅力的な提案をしよう」 「プレゼンテーションをする」 	情報を多様な方法で集め、聞き 手を想定して整理。 わかりやすい説明の構成や展開 をクラスで話し合う。 資料や機器を活用したり、写真 や図表などと言葉を効果的に組 み合わせ既習単元「流水と私た ちの暮らし」「モアイは語る」 などから SDGs の課題を提案。						

中学部第 三学年	単元名「社会との関わりを 伝えよう」 「相手や目的に応じた スピーチをする」	自分の社会生活から世界の課題について SDGS の資料から得た情報を整理し、スピーチの内容を構成。 話す相手や、内容、順序、言葉遣い、説明のしかたを考えてスピーチする。
---------------------	---	--

③ 導入における留意点

単元導入時に、学習目標や学習活動について児童・生徒に提示し、見通しを持って計画的に学習を進めることができるように配慮した。

④ 展開における評価と指導

オンライン授業を通して、児童・生徒の発言や、課題への取り組みなどに対して、「励まし」「承認」「示唆」「修正」「提案」「確認」「補充」など、全体や個へ必要に応じて適宜行う。

⑤ 学習評価の観点

「知識・技能」の評価

- 日常生活や社会生活に必要な日本語の特質を理解し、適切に使うことができるか。

「思考・判断・表現」の評価

- 知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力や表現力等を身に付けているかオンライン Live 授業でのルールを知り、正しく操作できるか。
- 知識及び技能を獲得し、学習の進め方の工夫しているか。
- 伝え方や表現法などを協働しながら意欲的に学習を進めているか。

《実践の結果と考察》

今回の全校学習発表会では、児童生徒が自分の意見や考えを、効果的に表現する道具として積極的にコンピューターを活用できた。

授業で学んだことをもとに、教材や資料から得た情報を Power Point スライドや Word 、作文のスクリーンショット等をシェアスクリーンで共有し、印象的に伝えたり、わかりやすく表現したりと、各学年、学習内容に応じたプレゼンテーションができた。

国語授業の中で ICT を有効に活用する事で、子供達は更に意欲的に学習に取り組むようになった様子である。

次のステップとして、国や地域、文化的背景の異なる世界中の補習校の子ども達と交流する学校間交流学習へと広げていきたい。